

教育プログラムの概要及び採択理由

機 関 名	横浜国立大学	申請分野 (系)	人社系
教育プログラムの名称	ビジネス・ドクター育成プログラム		
主たる研究科・専攻名	国際社会科学研究所・企業システム専攻		
(他の大学と共同申請する場合の大学名、研究科専攻名)			
取 組 実 施 担 当 者	(代表者)八木 裕之		
<p>[教育プログラムの概要]</p> <p>本専攻では、定員を充足し、学位授与数も順調に推移している。また、近年では有職者の進学が増加しており、入学者の7割～8割を占めている。これは博士課程前期専修コースの教育実績により、進学者が増加していることによる。同コースでは、有職者を対象に高度専門職業人育成を目的とし、プロジェクト型募集を行い、個別業務問題に対し業務間の繋がりを理解した上で解決する能力を育成するために、業務間のインターフェイスを重視した教育プログラムを整備している。さらに2名の専門分野の異なる教員がプロジェクト演習を担当し、これらを通じて自己の業務上の課題を企業活動全体から位置づけ、把握し、問題解決に至るために必要な統合的マネジメント能力の育成を「クロスオーバー・プログラム」として展開し、実績をあげている。しかし、彼らが博士課程後期に進学し、博士学位取得を効果的に行うためには、より専門領域を深耕させるプログラムが必要となる。本プログラムでは、既に実績を上げている3名の教員からなる博士課程後期の複数指導体制及び教育プロセス管理(2回の間中間報告と予備審査)をベースに、有職者の博士後期進学者に焦点を当て、有職者の博士号取得者であるビジネス・ドクターに必要な実践的問題解決能力を育成する「プロフェッショナル・プログラム」を導入する。さらに、修了後も習得した実践的問題解決能力を継続的にブラッシュアップする「フォローアップ・プログラム」を導入する。これらのプログラムを通して、博士論文の作成プロセスとコースワークを融合させ、段階を踏みながらビジネス・ドクターを育成する体系的教育プログラムの質的向上を図る。</p> <p>本プログラムの計画</p> <p>本プログラムはビジネス・ドクターとしての実践的問題解決能力を育成していくためのステップを、以下のⅠ～Ⅲの段階的プログラムによって提示する。履修にあたっては、専門分野を横断する複数の教員から構成される博士課程前・後期一貫型の研究指導委員会が指導を行う。</p> <p>Ⅰ「クロスオーバー・プログラム」(M1～D1)。本プログラムでは、「リサーチ・メソッド」(研究方法論)、課題対応型の「プロジェクト演習」(専門の異なる教員による指導)と専門分野横断型の「インターフェイス型履修プログラム」により広い視野と専門応用力を備えた統合的マネジメント能力を育成し、さらにそれを支援する「サポート・プログラム」(プレリキジット、会計CAI、ビジネス・ゲーム)を実施する。</p> <p>Ⅱ「プロフェッショナル・プログラム」(D1～D3)。本プログラムでは、自己の専門能力を深耕させ、深い洞察力を養い、実践的解決能力を育成するのに必要な問題定式化能力と分析・立案能力、これらをグローバルな環境の中で発揮するために必要な国際コミュニケーション能力を習得するためのサブプログラムを実施する。また、博士論文作成を教員とTA(学位取得者)がサポートする「博士論文作成セミナー」を開設し、学位取得の効果的研究支援を行う。</p> <p>[サブプログラムの概要]</p> <p>①問題定式化能力の育成:有職者の教育研究で直面する課題は、自己の体験やその基づく問題意識をより昇華させ、現実と理論の両面から問題を定義する問題定式化能力の育成である。「リサーチ・メソッド」に加え、同業界もしくは他業界の企業等を対象とした「ビジネス・リサーチ」、既に実施し成果をあげている本学の企業成長戦略研究センターと連携した「リサーチ・プラクティカム」によりこの能力を育成する。</p> <p>②分析・立案能力の育成:博士論文作成には分析・立案能力が不可欠であり、企業成長戦略研究センターと連携し、最先端研究者及び実務家を招いての「ワークショップ演習」、問題解決のための戦略立案を行う「企業成長戦略プログラム」によりブラッシュアップを図る。</p> <p>③研究成果等の国際コミュニケーション能力の育成:国際学会への投稿、研究報告を支援する英語プレゼン・セミナーと先端海外研究者の招聘を内容とする「グローバル・ワークショップ」により国際コミュニケーション能力を育成する。</p> <p>Ⅲ「フォローアップ・プログラム」(修了後)。本プログラムでは、実践的解決能力を継続的に向上させる「産官学連携研究」と「国際共同研究」を導入し、博士学位取得後に企業、研究機関、海外などで活躍する修了生のブラッシュアップをはかる。共同研究を通して得られた成果は、「博士論文作成セミナー」「リサーチ・メソッド」「ビジネス・リサーチ」「ワークショップ演習」「リサーチ・プラクティカム」にフィードバックし、プログラムの質的向上を図る。</p>			

履修プロセスの概念図（履修指導及び研究指導のプロセスについて全体像と特徴がわかるように図示してください。）

【教育プログラムと研究指導ステップ】

研究指導ステップ

経営プロフェッション育成プログラム

学位取得者

フォローアップ・プログラム

審査委員会審査

産官学連携・国際共同研究

博士（経営学）請求論文

D3

予備審査
（審査及び指導）

深い洞察力：実践的問題解決能力を
備えた経営プロフェッションの育成

D2

第2次中間報告
（審査及び指導）

博士論文作成

国際コ
ミュニケ
ーション
能力

グローバル・
ワークショップ

D1

第1次中間報告
（報告及び指導）

博士論文作成セミナー

分析
立案
能力

ワークショッ
プ演習

企業成長戦
略プログラム

企業成長戦略研究センター・提携機関

M2

研究計画書
（研究課題指導）

リサーチ・メソッド

問題
定式化
能力

ビジネス・
リサーチ

リサーチ・
プラクティカム

M1

修士論文

プロジェクト報告

修士論文作成

幅広い視野：統合的マネジメント
能力の育成（専門応用力）

問題
定式化
能力

プロジェクト
演習

インターフェイス型
履修プログラム

サポート
プログラム

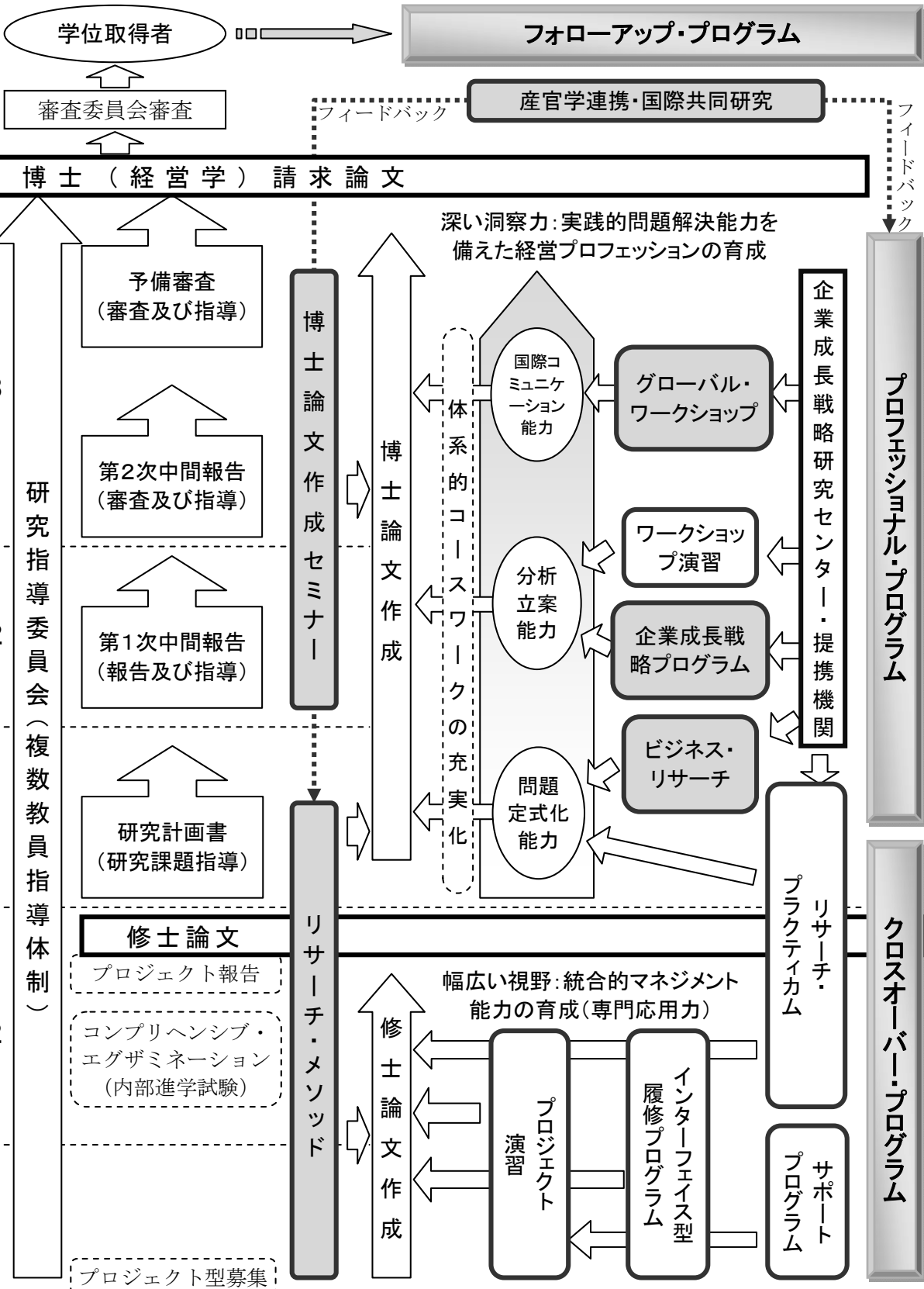
プロジェクト型募集

プロフェSSIONナルプログラム

クロスオーバープログラム

フィードバック

フィードバック



<採択理由>

大学院教育の実質化の面では、企業経営に関わる高度な専門知識と能力を持つ高度専門職業人の養成という、社会のニーズに対応した人材養成目的が明確に掲げられており、それに沿った段階的かつ体系的な教育課程が編成され、専門領域横断型で博士前後期課程を一貫させた実効性の高い研究指導体制が整備されている点は高く評価できる。その一方で、社会人学生を対象としたこれらの取組を有効に機能させるための教育活動の質の向上や改善を図るFDなどを組織的に推進する体制等について更なる工夫が望まれる。

教育プログラムについては、実践的研究能力の開発に向けた教育需要に応えるため、統合的なマネジメント能力の育成をめざす「クロスオーバー・プログラム」、博士課程において高度専門能力と実践的問題解決能力を発展させるための「プロフェッショナル・プログラム」、修了後の持続的なブラッシュアップを目的とした「フォローアップ・プログラム」の導入など、段階的な教育を整備する取組は評価できる。また、複数教員による指導委員会の編成など、教育目標を達成する方策も明確であり、社会人向けの高度専門教育の実績や全学的な支援体制が整備されていることを併せ、実現性、実効性が評価できる。ただし、大学院生の国際化を目指す教育プログラムという側面から、国際コミュニケーション能力の育成方法等について、その目標や計画を更に具体化することが望まれる。